



# 20代後半の出会いとマッチングアプリ利用に関する実態調査レポート

独自調査と公的データから読み解く、現代のパートナー探しのスタンダード

2025年

Presented by [Website/Blog Name Placeholder]

# 本レポートの要点：20代後半の出会いには「効率」と「価値観」へ

## Normalization



真剣な利用が6割超。  
ネットでの出会いはもはや「当たり前」のインフラに。

## Selection



「同年代」と「価値観」が鍵。スペックよりも内面重視の傾向。

## Result



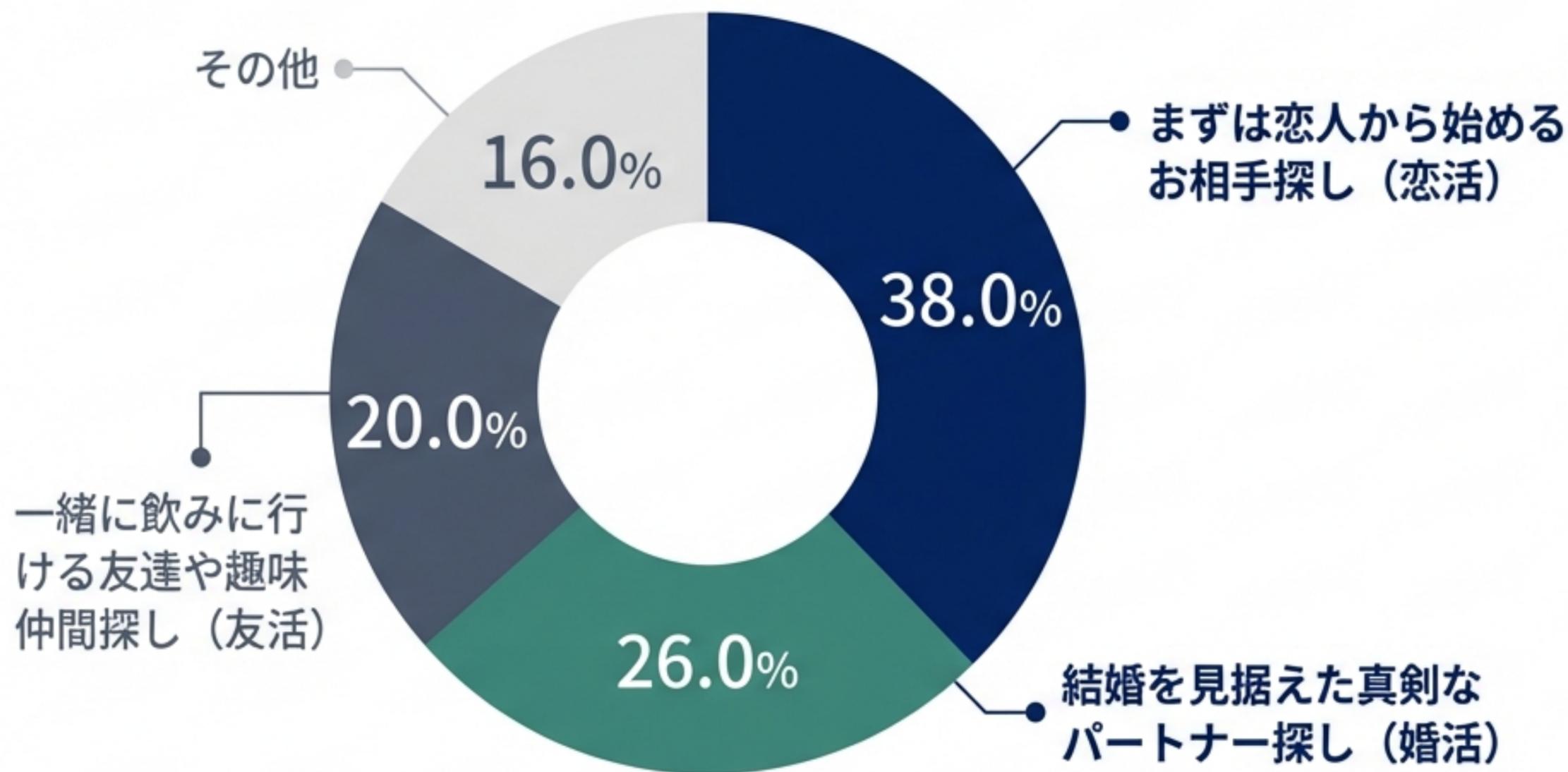
半数以上が交際・結婚を実現。市場拡大と共に成果も出ている。

## Caution



目的のミスマッチが最大の不満要因。アプリ選びの重要性が浮き彫りに。

# 利用目的の6割以上が「真剣なパートナー探し」



20代後半はライフステージの変化に伴い、遊び相手ではなく将来を見据えた「恋活・婚活」目的での利用が主流となっている。

# ネットきっかけの結婚は13.6%で過去最高を記録

# 13.6%

過去最高 (Record High)

「インターネット（マッチングアプリ等）」を  
きっかけに結婚した夫婦の割合

職場や友人紹介が減少傾向にある中、ネットを通じた出会いは過去最高を更新。もはや「特殊な出会い」ではなく、社会的なインフラとして定着している。

# アプリ選びの基準は「同年代」と「価値観」

同年代（20代後半）のユーザーが多く、マッチングしやすい

35.0%

価値観や趣味の合う相手を探しやすい機能が充実している

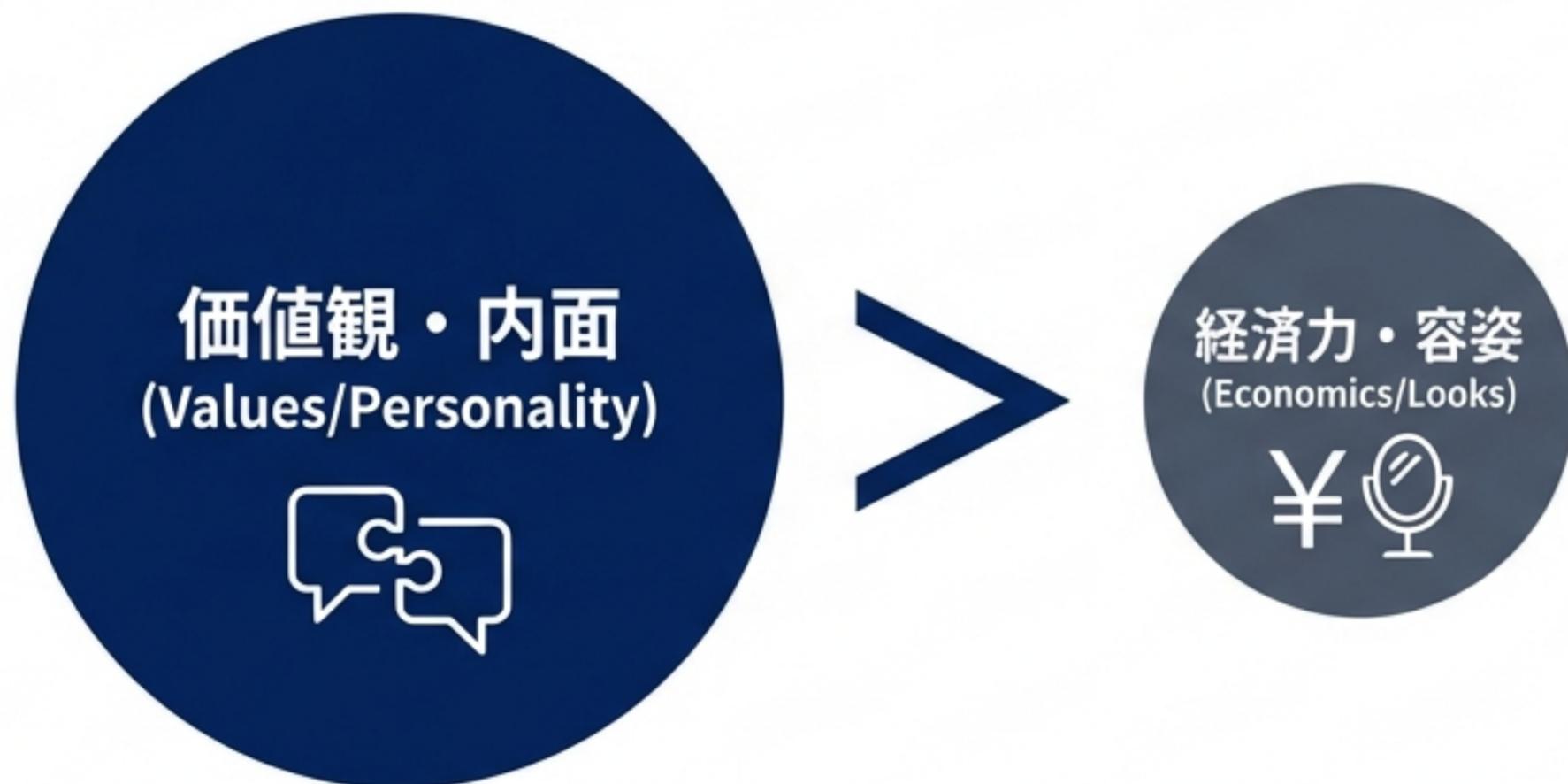
28.0%

「おでかけ機能」など、即日飲みに行ける・すぐ会える

18.0%

「すぐに会える」というスピード感よりも、同年代という安心感や、内面的なつながりを重視してメインのアプリを選定している。

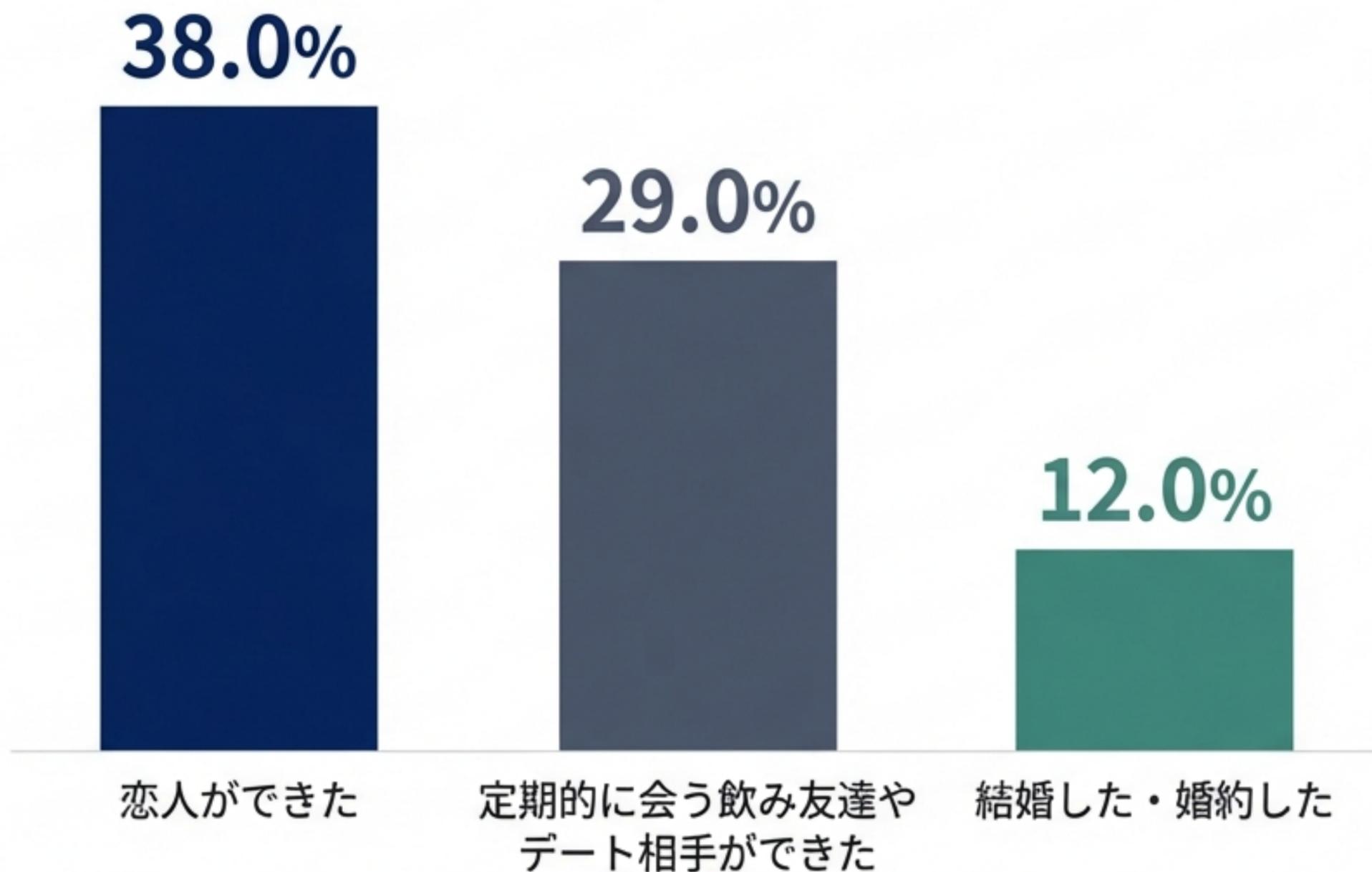
# 経済力や容姿以上に「価値観の近さ」を重視



若者世代の結婚観において、  
内面的な相性が最重要視される傾向。

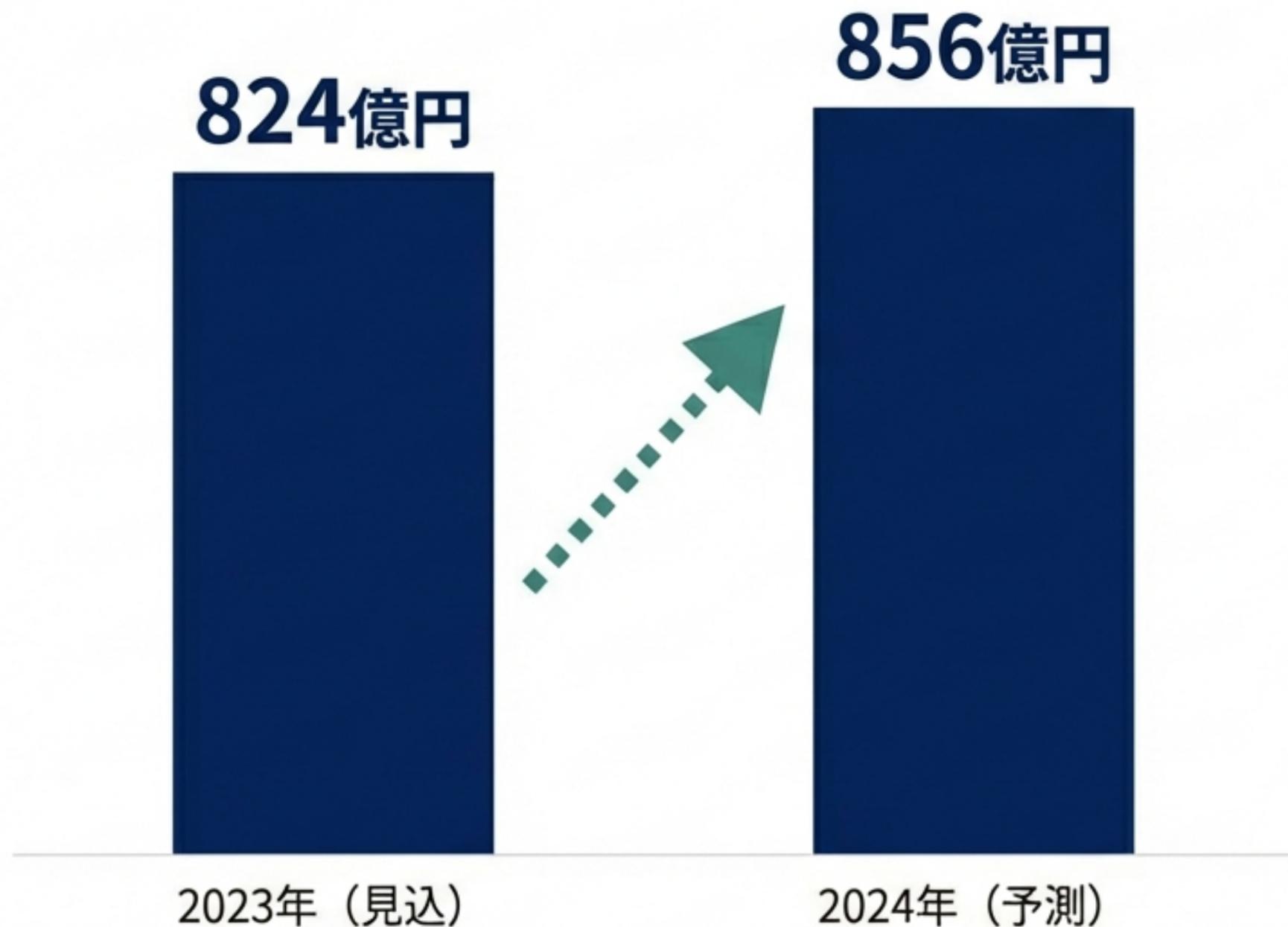
選択肢が多い現代だからこそ、条件検索だけでなく「話が合うか」「人生観が似ているか」が最終的な決定打となっている。

# 利用者の約半数が「交際・結婚」を実現



「恋人ができた」「結婚した」を合わせると50%に達する。アプリは単なる暇つぶしではなく、高確率で良縁を縁をつかむための有効なツールとして機能している。

# 市場規模は800億円を突破し拡大傾向



市場は継続的な拡大傾向にある。ユーザー数の増加は、出会いのチャンス増加とサービスの安全性向上（淘汰と練）を示唆している。

## 最大の不満は「ユーザー間の目的のミスマッチ」

1	自分の目的（恋活・婚活・飲み友など）と合わないユーザーがいた	34.0%
2	メッセージが急に途切れたり、ドタキャンされたりした	28.0%
3	写真や条件と、実際にお会いした時のギャップがあった	19.0%

トラブルの多くは「婚活目的」と「遊び目的」の混在から生じている。  
自分の目的に合ったアプリを選び、安全策を取りながら賢く利用することが重要。

## 調査概要・データ出典

---

- 当サイト独自調査：マッチングアプリに関する実態調査 (2025年・20代後半男女 n=300)
- 国立社会保障・人口問題研究所：第16回 出生動向基本調査 (2021年)
- 内閣府：令和3年度 人生100年時代における結婚・仕事・収入に関する調査 (2021年)
- 株式会社矢野経済研究所：オンライン恋活・婚活マッチングサービス市場に関する調査 (2023年)
- 独立行政法人国民生活センター：出会い系サイトやマッチングアプリ等に関する消費生活相談データ (2021年等)